



一般社団法人 日本物流団体連合会
Japan Association for Logistics and Transport

〒100-0013
東京都千代田区霞が関3丁目3番3号
全日通霞が関ビル5階
TEL: 03-3593-0139
FAX: 03-3593-0138
URL: www.butsuryu.or.jp

News Release

令和4年2月1日

「第3回物流標準化調査小委員会」を開催

(一社)日本物流団体連合会(池田潤一郎会長)は、1月27日(木)第3回物流標準化調査小委員会(座長:東京女子大学 二村真理子教授)を全日通霞が関ビル会議室で開催し、国土交通省を含む委員15名が出席した。

はじめに、講演の部では、(1)(一社)Pパレ共同使用会 常務理事 平世哲雄氏より「Pパレ共同使用会の取組について」、(2)日本パレットレンタル(株)/JPR 総合研究所 主席研究員 永井浩一氏より「パレット利用に関する一つの提言」と題して、標準パレット運用や循環利用のあり方について事例を交えた説明が行われた。

出席者からは30年以上にわたるビール・飲料業界やレンタルパレットにおける取組みの歴史や現状について、これから一貫パレに取組む事業者だけでなく、パレットの回収・流失に課題を感じている事業者にとっても示唆に富んだ講演であったとのコメントが寄せられた。

また、(1)の説明に関して、パレットを自社個別所有から共同使用に切り替えた場合の効果の検証について質問があり、共同回収によりパレットの安定的供給が可能となり、個別企業毎の大量購入が抑えられる効果があるとの説明があり高い関心が寄せられた。

続いて、議事(1)として、1月18日(火)に開催された第2回パレット標準化推進分科会における論点について、国土交通省 総合政策局 物流政策課 高田公生課長より情報共有が行われた。パレット標準化に向けた検討の進め方について、これから実態調査を行い、サイズ・仕様などの「規格」と「運用」の両面から標準化推進方策の検討を進めていくことや、現状と課題を踏まえ、標準化のあるべき姿やそのためのステップを示していくこと等が示された。

議事(2)では、アンケートの分析結果説明と意見交換が行われ、メーカー・生産者などサプライチェーン上流の物流施設で使用されるパレット平面サイズは、T11型が7割弱ともっとも多かったこと、続いて14型、12型、9型(Pパレ)がいずれも低い割合で確認され、このことを踏まえて、標準パレットを2~3に収れんするとの当初提案よりも、T11型の普及率を上げることの方が現実的ではないかとする見解も示された。

続いて、一貫パレを阻害する要因分析についての意見交換では、①倉庫における保管効率の低下、②トラック積載効率や運賃低下への懸念、③着荷主側におけるパレット流失対策およびパレットレンタル料の応分の負担など、コストに関わる問題も多く含まれることから、当事者間同士では解決が難しく、20年前と比べて進展が見られない状況にあるのではないかとの懸念も寄せられた。

その一方で、ビール・飲料業界やレンタルパレットの事例に言及して「共同化」の歩みは着

実に進んでいること、コストを圧縮する新たな取組みとして、レンタルパレット会社間の連携によるパレット共同回収も始まっているなどの動きもみられるとの意見も寄せられた。また、パレット流出問題への対策として、これを可視化できるようリアルタイムで動態管理する先進技術を導入するべきではないかとの意見も複数寄せられた。次回会合は3月を予定する。

以上
事務局 小野



二村座長



Pパレ共同使用会 常務理事 平世様



国土交通省 高田課長



日本パレットレンタル主席研究員 永井様



会議風景



オンライン参加の様子